

2022年度 事業計画書

学校法人 山梨英和学院

目 次

2022 年度事業計画 理事長巻頭言	1
参考 山梨英和学院中長期経営計画	2
I 大学	3
II 中学校・高等学校	12
III 認定こども園	20
IV 学校法人（法人本部）	23

2022 年度事業計画の策定にあたって

2 年目となるコロナ禍の下で過ごした 2021 年度は、前年度と同様に多くの制限の下で過ごした 1 年間でした。しかし、大学・中高・こども園の各現場では責任者のリーダーシップと全教職員の創意工夫、そして普段以上の努力により、可能な限りの教育と保育を提供できたものと思っています。

引き続きウイズコロナとなる 2022 年度も、急速な少子化という荒波の中を進むことになりますが、最も大切なことは、学生、生徒、保護者の満足度と社会からの信頼度を高めるために教育と保育の質を更に磨きつづけること、そのために努力し続けることであると思っています。

一方、部門毎の課題として、大学は短期大学から 4 年生大学への改組転換から 20 年目を迎え、開学 20 周年記念事業(キャンパス整備、記念行事等)を実施し、教育・研究環境の一層の充実を図る予定です。中学校・高等学校は定員充足が目下の重要課題であり早急に有効な対策が求められます。こども園は園舎の老朽化が進んだカートメルこども園とダグラスこども園の園舎建替えに道筋を付けなければなりません。

そして、学院全体で総力をあげて取り組まなければならない重要課題があります。それは、長期ビジョンと次期中長期経営計画の策定です。これは山梨英和学院の将来を左右する重要な計画となります。

このように、引き続き多くの課題を抱えています。創立から 133 年間、時々の荒波が押し寄せても山梨英和学院を守り続けてくださった創り主なる神に信頼し、今必要な最善の知恵と力が与えられることを祈りつつ、全教職員の力を結集して 2022 年度の事業を進めていきたいと思ひます。

最後に、2022 年度の学院年度聖句を記します。

— あなたの業を主にゆだねれば 計らうことは固く立つ —

箴言 16 章 3 節

理事長 小野 興子

参考

山梨英和学院中長期経営計画

区 分	施 策
山梨英和学院（法人全体）	<ol style="list-style-type: none"> 1.学院全体の建学理念の浸透 2.学院全体のガバナンス（統治）体制の確立 3.学院全体のコンプライアンス（法令遵守）体制の確立 4.学院全体の徹底した合理的経費削減策の実施 5.人材育成（教職員のスキルとモラルの向上） 6.経営計画委員会の設置と実効 7.広報活動の学院一元化と山梨英和ブランドの再構築 8.同窓会等ステークホルダーとの関係強化 9.創立 130 周年記念事業の展開 10.外部人材・情報・ネットワークの有効活用 11.奉仕の英和・社会貢献の英和像の定着 12.寄附金増加対策の実施 13.学院全体の教育環境の整備計画の調整 14.小学校新設の検討
山梨英和大学	<ol style="list-style-type: none"> 1.定員充足率の向上目標必達 2.英語教育カリキュラムの改革 3.奨学金制度の見直しと拡充 4.グローバル化への取り組みを強化 5.新学部、新学科設置及びカリキュラムの抜本的改革 6.2021 年度からの大学入試改革への対応 7.就職活動指導・支援体制の強化と拡充 8.教育の質の更なる向上 9.地元・東京圏にある他大学との連携の強化と海外の大学との提携ネットワークの拡充 10.在学生・卒業生の山梨英和大学の誇りと自信の涵養 11.メイプルカレッジによる社会貢献活動の体制作りと実践
山梨英和中学校・高等学校	<ol style="list-style-type: none"> 1.英語学習指導を定着させ、総合的英語力の育成 2.キリスト教系大学への認知度および進路実績の向上 3.入学募集と進学支援の改善 4.SSH 等による授業改革 5.中高の統一による校舎の高機能化
山梨英和認定こども園	<ol style="list-style-type: none"> 1.保育・教育 2.幼保連携型認定こども園教育保育要領の研究と展開 3.職員間の情報の共有 4.研修の充実 5.利用定員と職員の体制 6.園舎・環境構成 7.子育て支援 8.事務・経理 9.その他

I 大学

1 はじめに

個別の事業計画について、以下に大学としての大枠の事業計画を記す。

2022 年度予算の策定に当たっては、中長期経営計画(5 か年計画の 5 年目)、及び法人の予算編成方針に従い粛々と進めるが、2022 年度についてとりわけ重要な事項である下記 3 点については別途留意したい。

- ① コロナ禍における安全・安心に留意した大学運営。
- ② 2022 年度に実施される大学基準協会による認証評価への対応。
- ③ 大学開学 20 周年記念事業の取り組み。

2 基本方針

(1) 選択と集中

不必要なもの、無駄なものを徹底的に洗い出し、大学にとって集中すべきコア・コンピタンスとは何かを追求する。

限られたリソースの有効な配置と、費用対効果の意識を常に持つ。

(2) 諸方策の検討、実施

学長中心のガバナンスにより、意志決定と変革のスピードを上げ、諸方策の検討・改革・改善・実行を行う。

(3) 予算編成にあたって

予算積算においては、法人の予算編成方針に従い、事業活動収支の均衡・単年度での収支均衡を念頭において、既得権意識を排除し、ゼロベースから厳しく積算する。

ただし教育・研究・運営・施設設備等に係る追加的重点事項・突発的事項に対応するため、相応の学長裁量費の計上を行う。

3 主な教育・研究の概要

● 建学の精神:ミッション

キリスト教精神を基盤とした山梨英和大学は、校訓である「敬神・愛人・自修」のもとに、「他者とともに生きる」、「他者とともに在る」大学として、次のような資質を持った地域に根ざした「よき隣人」の輩出を目指す。

- ① キリスト教精神に基づき、地域住民を中心としたすべての人の「こころ」に寄り添い、様々な境遇にある隣人のすべてを愛し、助け合うマインドセットを持っている。
- ② 地域の中で自身が果たすべき役割の具体像を持ち、そのために必要な知識やスキルを自ら発見し、生涯にわたって磨き続けることができる。
- ③ 地域に押し寄せるグローバル化に適応し、主体的な参加、責任を持った行動ができるグローバルシチズンシップを持っている。

● 教育研究目的と方針

[大学]

○ ビジョン

山梨英和大学は、真に国際的な大学となることを目指す。それは、様々な国や地域から学生を受け入れることだけではない。本学は、国籍や民族の違いを超えて、常に国際的な視点でものを考えるとともに、自らの立脚点をしっかりと見据えて地域社会と密接に

連携しつつ、キリスト教精神に根ざした深い人間理解のもとに、世界の平和と安定のために活躍する人材を輩出することを目指す。

現代は、様々な国や地域で発達した文化が、あるいは融合し、あるいはより独自に発展しつつ、グローバル化している時代である。こうした時代にあって、山梨英和大学人間文化学部においては、人間文化を理解する基礎基本を学ぶべく、言葉の理解と表現方法の習得、情報の伝達手法(コミュニケーション能力)の習得、人間の心の理解などを幅広くかつ深く学び、極めることを目指す。これらを包括する名称として「人間文化学」を掲げ、人間文化学部人間文化学科(一学部一学科)を設置している。

○ 「卒業に関する方針」(ディプロマポリシー)

「人間文化学」のカリキュラムにおいて所定の単位を修めることにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

- ① 人間文化学に関わる幅広い教養と体系的な知識を修得し、多面的・論理的な判断に基づいて課題解決に取り組むことができる。
- ② 他者を理解しながらさまざまな手段で自らの考えを表現し、円滑なコミュニケーションをはかることができる。
- ③ 多様な文化や価値観を受け入れ、キリスト教教育によって培った倫理観をもって地域社会の発展に貢献できる。

○ 「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラムポリシー)

- ① 1・2年次で中心的に学ぶ基礎科目群では、キリスト教の精神を学ぶ科目、自己理解・他者理解のための科目や地域社会を理解するための科目に加え、人間文化を理解するための基盤となる創造性・協調性・コミュニケーション・ICTなどの高度な活用能力(フルーエンシー)を実践的に身につける。
- ② 2・3年次では修得したフルーエンシーを基盤とし、人間文化学を形成する下記の3つの専門領域を体系的に学ぶ。サイコロジカル・サービス領域:「こころ」を理解し「ひと」を支える心理の専門家をめざす。グローバル・スタディーズ領域:グローバルな視点から日本と世界を見つめ、真の国際人をめざす。メディア・サイエンス領域:ICTを駆使して新たな価値を創造するクリエイター、イノベーターをめざす。
- ③ 3・4年次では、「専門ゼミナール」や「卒業プロジェクト」などに代表される、専門領域を深く追究する科目を学ぶとともに人間文化学を横断的に学ぶための領域融合科目を学ぶ。

さらに、4年間をとおして幅広い教養を身につけたり、自己を磨いたりするための科目として「オープン科目」を設けている。

またキャンパスの内外を学びのフィールドと位置づけ、学外での学修活動をも推進すべくクォーター制とセメスター制を併用する。授業においてはフィールドワークやアクティブラーニングを積極的に取り入れ、カリキュラム全体で学生主体型の教育を行い、さまざまな分野でのフルーエンシーを醸成するようになっている。

○ 「入学者の受入に関する方針」(アドミッションポリシー)

山梨英和大学は、「敬神(神を敬い)、愛人(人を愛し)、自修(自らを修める)」を校訓としている。キリスト教精神に基づく建学の精神に由来するこの校訓と今という時代における大学のあり方に対して真摯に向き合い、地域に根ざした大学として教育・研究活動を行っている。本学では次のような学生を積極的に受け入れる。

- ① 奉仕の心をもって、地域や国、さらには世界の発展に貢献したいと考えている人
- ② 文化や言語のちがいを越えて他者を理解し、ともに学ぼうとする意欲をもつ人

- ③ 主体的に学ぶ姿勢をもち、地域はもちろんのこと地球規模の課題にも積極的にチャレンジする人
- ④ 本学の学習に対応できる基礎的な学力を有する人

[大学院(人間文化研究科 臨床心理学専攻)]

○ ビジョン

現代は、多くの人たちが高度に発達した科学技術文明の恩恵を享受する一方で、人の精神的営為との齟齬が表面化することによる社会不安が増幅している時代でもある。山梨英和大学では、こうした認識に基づき「人間の心理」を学問的に探求するのみではなくきわめて具体的に「心に悩みをかかえている人」への支援を実践する人材を養成すべく、大学院に臨床心理学専攻を設けた。大学院に臨床心理学専攻を有する大学は、山梨県内においては本学のみである。心のケアが今後ますます必要とされる時代にあつて、本専攻の存在意義や社会からの要請はさらに大きくなっている。本専攻が、大学院人間文化研究科の専攻として位置づけられていることは、臨床心理学という研究分野が「人間文化」とは決して切り離すことができないことを意味している。人間文化についての深い理解なくして人間の心を深く理解することはできない。

○ 「卒業に関する方針」(ディプロマポリシー)

山梨英和大学大学院人間文化研究科(臨床心理学専攻)は、臨床心理の専門家を養成することを第一義とするカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格することにより、次に示す能力や資質などを備えた学生に対して修士課程修了を認定し学位を授与する。

- ① 本大学院修了後にも学ぶべき課題を持ち、学び続ける自発的な向学の姿勢を有する。
- ② 個人にも集団にも目を向ける対人姿勢を備え、人間に対する尊敬の念、謙虚さと誠実さをもって人を活かしつつ関わるという対人援助を自らの役割として心得ている。
- ③ 医療、教育、産業、福祉、司法など、どのような臨床領域においても適切な援助や介入のあり方を判断し、地域の専門機関と連携をしながら、実行する実践力を有する。
- ④ 心理学の方法や観点に基づいて職場内の課題を調査研究し、解決への提言を出すことができるような知識と方法を有する。
- ⑤ 学校や地域や企業などにおいて、予防のために心の健康の重要性を教育する力を有する。
- ⑥ 臨床家としてのあり方の背景にキリスト教精神に基づく死生観を持ち、特に「緩和ケア」、「高齢者援助」などの死に直面する課題に対する臨床的関わりの中にそれを活かすことができる。

○ 「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラムポリシー)

山梨英和大学大学院人間文化研究科(臨床心理学専攻)は、教育目的を達成するために、大学院設置基準、日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士第 1 種指定大学院」としての指定条件並びに公認心理師法に基づく公認心理師法施行規則第 2 条に定める科目条件を満たすとともに、学部における学びとの連続性を図るよう教育課程を編成している。

- ① 開講科目は、主要な知識を技法論と共に学ぶ「基幹科目」、専ら臨床実践に習熟するための「臨床科目」、調査・研究のための手法を学ぶ「研究科目」の 3 つの科

目群により編成する。

- ② 臨床心理学は実践の学であることから、多くの理論的科目においても実践的技法と関連づけて学ぶことができる授業を実施する。
 - ③ 学生が実社会と接して問題を発見し、文献や資料を検索して調査・検討したものを報告し、教員と討議できるよう、主体的に参加する授業を実施する。
 - ④ 多面的に展開して領域全体を広く展望できる授業と人の心を深く探求することで個人の特長性の理解を目指す授業とを実施する。
 - ⑤ 実践家としてのみならず、研究者として実社会において活躍できるよう、課題の発見や研究の遂行を可能とする研究法に関する知識を提供する。
 - ⑥ キリスト教信仰に基づく隣人愛や人間存在を尊重する倫理観が、臨床家としてのあり方に反映することを旨とした授業を実施する。
- 「入学者の受入に関する方針」(アドミッションポリシー)

山梨英和大学大学院人間文化研究科(臨床心理学専攻)は、キリスト教精神による人間形成、社会への奉仕という建学の理念に基づき、臨床心理学的支援を実践できる高度な専門的職業人の養成を教育目的とする。この理念・目的に共感する、次のような人々を国内外から広く受け入れる。

- ① 人間の心の問題の研究を通して、真に役立つ「心のケア」のあり方を探求するとともに、自己研鑽を深めつつ他者の心を支えようとする姿勢を持ちたい人
- ② 本大学院が提供するカリキュラムにより身につけた知識、技法、対人・対社会態度、共感的理解力を活かして、臨床心理士または公認心理師の資格を取得し、専門的職業人として社会に貢献したい人
- ③ 本大学院が提供するカリキュラムによる自己研鑽を通して、臨床心理の専門家に期待される業務のみならず、自発的に課題に取り組み、研究し、提言することができる社会的スキルを備えたい人
- ④ キリスト教精神に根ざした考え方を基盤として建学の理念を具現化するため、「精神的に他者と共に在る隣人愛」を実践したい人

3 事業計画

(1) 教育・研究関係

● 重点事項

① 定員充足率の向上目標必達

学部の定員(155名)充足率は2019年度(中長期経営計画2年目)において既に目標を達成し(177名)、続く2020年度(170名)、2021年度(194名)であった。4学年全体の収容定員充足率で100%超を達成した。

しかし2022年度入試の志願状況は現在(2021年12月時点)のところ厳しいと言わざるを得ない。これは単に18歳人口の減少だけでなく、長期化するコロナ禍による影響も非常に大きな要因であり、さらにこの複合的な悪条件は今後も継続していくと予想されている。

このような悪条件下でも定員の絶対確保を目指し、過去4年で行ってきた施策をより精査し、SWOT分析のみでなく様々な分析・データ定量化を行うことによって(山梨英和大学モデル)を確立させることに全力を傾ける。

② 英語教育カリキュラムの改革

大学中長期経営計画実行委員会(英語教育改革検討委員会)からの報告・提案等の承

認を踏まえ、カリキュラム改革と連動し、英語運用能力の飛躍的な伸長等をめざした英語教育の充実を行う。

「英語の英和」英語嫌いの学生を無くしつつ、学生たちの英語への学習意欲を促進する。とりわけ、「英語強化プログラム」によって、教養に溢れた、意識の高い学生を社会に送り出したい。

なお、実際の改革にあたっては **2021** 年度に新たに設置・常設化されたカリキュラム委員会が、教学マネジメントの観点から主導する。

③ 奨学金制度の見直しと拡充

2020 年度において、奨学金の拡充(特待生奨学金、奨学金 S 種)、新設(エクセレント特待生制度)、規程改定(災害被災学生奨学金)を行い、**2021** 年度はこれらを継続した。

2022 年度は引き続きこれらと既存の奨学金、及び国の修学支援制度(高等教育無償化)とを組み合わせ、手厚い学生支援体制を整え、志願者確保、及びコロナ禍における退学者対策に活用する。

④ グローバル化への取り組みを強化

2020 年度に引き続き、**2021** 年度もコロナ禍においてグローバル化への取り組み強化は大きな影響を受けた。国内外の状況を鑑みると中長期経営計画にうたわれている入学者に対する留学生の比率 **30%** 以上(定員 **155** 名の場合、**47** 名以上)、海外への留学生毎年度 **150** 名という目標の **2021** 年度中の達成は不可能である。

しかしながら今後の安定的な志願者獲得の施策として留学生増員は必須であり、またグローバル化のため体験留学者を増やすことも必須である。

2022 年度は既に在籍中の留学生へのサービス向上も踏まえ、本学における国際交流及び留学生受入の定義・目的・方針を再検討し、教育面では日本語教育の充実、事務面では国際交流室に変わる新たな組織の設置を含めた支援体制の充実を検討していく。

⑤ 新学部、新学科設置及びカリキュラムの抜本的改革

学内外を取り巻く環境を鑑みるに、新学部・新学科の設置はかなり厳しい状況であるが、今後も検討する姿勢は持ち続けたい。

カリキュラムの抜本的な改革については既に **2020** 年度において完成し、**2021** 年度は多くの講義において本格始動した。**2022** 年度は引き続き円滑な移行を行っていくとともに、**2021** 年度に新たに設置・常設化されたカリキュラム委員会主導のもと、教学マネジメントの観点から適切化を図っていく。

なお、一学部一学科体制の良さを生かして、領域を柔軟に組織・運営し、社会のニーズに素早く対応できるような態勢を構築してゆく。

⑥ 2021 年度からの大学入試改革への対応

学内入試については名称変更も含め、既に対応済みである。**2021** 年から実施された新共通テスト(旧大学入試センター試験)への対応も含め、コロナ禍が続いた場合でも安心・安全・確実な入試実施に留意する。

なお表題とは異なるが、**2022** 年度から高校の新課程がスタートする。これを受けた入試制度上での対応が **2025** 年度から必要になることも予想され、その検討・準備も行っていくきたい。

⑦ 就職活動指導・支援体制の強化と拡充

2020 年度に新体制(部署独立、場所移転、スタッフ増員)となった進路部主導の下、「学生の主体的な進路決定支援の強化」を重点目標に掲げ、就職内定率、進学内定率、留学生の国内就職・進学率の向上、及び社会的評価の向上を図りたい。

具体的な施策としては、①学生の進路希望別支援プログラムの体系化、②産学連携、地域連携でのインターンシップ開発・拡大、③学生相互支援ネットワークの構築、④進路支援スタッフのレベルアップ、等を行う。

⑧ 教育の質の更なる向上

2021年度に新たに設置したカリキュラム委員会において教学マネジメントの観点から、適切な講義実施に向けた検討・調整を常に行っていく。

またFD・SD推進委員の主導により、教育の質向上のためのFD研修、マネジメント能力向上のためのSD研修を計画的に行っていく。

⑨ 地元・東京圏にある他大学との連携の強化と海外の大学との提携ネットワークの拡充

2020年度に引き続き2021年度もコロナ禍において進展が図れない状況であったが、2022年度は出来る限りの連携・拡大を図っていく。特に、単位互換制度の実質化を含めた三英和間の連携を模索してゆきたい。

⑩ 在学生・卒業生の山梨英和大学の誇りと自信の涵養

コロナ禍においても途切れることなく、チャペルセンターを中心としたキリスト教教育体制の充実を図っていききたい。

また後援会、同窓会とも連携し、保護者・卒業生への情報発信を絶えず行っていく。

⑪ メイプルカレッジによる社会貢献活動の体制作りと実践

大学中長期経営計画実行委員会(メイプルカレッジ改革検討委員会)からの報告・提案等の承認を踏まえ、これまで以上にゼミ及び寄付講座・講演会・セミナーの積極的実施に向け協議・調整を行う。

その際は言うまでもなく、コロナ禍での状況判断、及び感染防止対策の徹底が必要となる。

なお、在学生の受講料を無料とする体制を維持し、学部教育充実への一助とする。

なお、2022年度中に、メイプルカレッジを含む本学の地域連携・地域貢献活動について、その定義・目的・方針を再検討し、新たな体制を構築する予定である。

● 人事

財政状況を踏まえ、教育の質的維持を図ることを前提として、社会的な要請等を考慮し慎重かつ厳格に行う。今後の教職員人事については、職員人事の方針(2018年12月21日臨時理事会決定)、働き方改革への対応(2019年3月22日理事会決定)、及び同一労働同一賃金への対応等の国又は本学院の人事施策を踏まえ、本学及び地方大学をめぐる厳しい社会状況を考慮した上で、本学にとって有為な人材を確保すべく努力する。

なお2021年度に新たに「求めるべき教員像」「求めるべき職員像」を定めた。今後の教職員人事において、採用時にも、人事考課においても重要な指針となるであろう。

● その他

① コロナ禍における安全・安心に留意した大学運営

コロナ禍がさらに2022年度も続くと仮定した場合、安心・安全に留意した大学運営は非常に重要になる。学生の講義、登下校、課外活動、教職員の勤務態勢、入試広報活動や入学試験実施、各種イベントや講座開講などにおいて、感染拡大状況に対応した制度や物心両面の施策を適時実施していきたい。

② 2022年度に実施される大学基準協会による認証評価への対応

2022年に実施される大学基準協会による認証評価については、準備を着実に進めており、正式なエントリーを済ませ、提出する調査書を準備しているところである。

(2021年12月現在)

既述の重点事項と、大学基準協会の大学評価を行う際の基準(理念・目的、内部質保証、教育研究組織、教育課程・学習成果、学生の受け入れ、教員・教員組織、学生支援、教育研究等環境、社会連携・社会貢献、大学運営・財務)を照らし合わせ、大学として適切な水準を保つよう留意したい。

実地調査等は 2022 年 10 月前後に行われる予定である。

また認証評価に際し、様々な制度・方針を 2021 年度内に再整備した。

2022 年度はそれらの新制度・新方針を踏まえた上で、自己点検評価、教学マネジメント、内部質保証制度をスケジュールに則り粛々と実行していく。

③ 大学開学 20 周年記念事業の取り組み

2021 年 5 月、山梨英和大学プロジェクトチーム設置規程に則って「山梨英和大学開学 20 周年記念事業委員会」が設置され、記念事業の実施と併せて施設改修を行う基本方針が確認され、以降十数回に亘り会議を開催し、内容の検討を続けてきた。

またプロジェクトと同時進行で、特に施設面の課題を明確にするため、2 つの事を行った。1 つ目は専門業者による全校舎の外壁等の劣化状況、並びに全校舎の屋根防水状況の本格的な調査である。既に目視、及びいくつかの事象(天井材落下や雨漏り)で推測されていた校舎の劣化具合について、客観的で悲観的な現状を把握した。

2 つ目は 2021 年 10 月に全学生・全教職員を対象に実施した、施設設備アンケートである。

これにより各施設設備の満足度、及びニーズを把握した。ここでは詳細は述べないが、学生・教職員とも、本学キャンパスの立地や配置には非常に満足度が高く愛着を持っているものの、老朽化や劣化し機能が衰えた施設(照明、空調、トイレなど)や、破損した施設(クラブハウスなど)には、不満を抱えている実態が明らかになった

上記調査及びアンケート結果を踏まえ、プロジェクト会議において更に検討を行い、以下のことを決定し、「開学 20 周年記念事業」事業計画(案)」を作成した。

以下に、基本的なものだけ列記する。

詳細については「山梨英和大学「開学 20 周年記念事業」 事業計画(案)」を参照のこと。

[目標・基本方針]

周年記念事業を通じて、開学 20 周年を広く周知し、ステークホルダーに対し感謝を伝えるとともに、本学の歴史を回顧してその使命を今一度明らかにした上で、本学の伝えるべき価値・未来への展望を語り広げる機会とする。

[事業内容]

- ① アニバーサリーイヤーを、2022 年度・23 年度の 2 年間(2022 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)と設定する。
- ② 主にソフト面での「開学 20 周年記念事業(案)」を、2022 年度中に実施する。
- ③ 主にハード面からなる「開学 20 周年大規模改修計画(案)」を、2022 年度から 2 期に亘って計画的に実施する。
- ④ 次期長期ビジョン、中長期経営計画の策定を始める。(策定については別に委員会等を定めて検討する)

● 「開学 20 周年記念事業(案)」

主にソフト面での開学 20 周年記念事業を、以下①～⑧について、2022 年度中に実施する。

実施に当たっては、各責任者を設け、教職協働し、学生を巻き込み、ステークホルダーに対しても還元していきたい。予算案については、別記する。

① 山梨英和大学 開学 20 周年記念祭(5/27)

山梨英和学院創立記念日に合わせ、2022 年 5 月 27 日(金)に開学 20 周年記念祭を行う。

記念講演会を核として、立食パーティー、アカデミックサロン、学生企画、アニバーサリーソング発表会などで構成。対象は学生、教職員。

記念講演会(10:00~12:00)

芦名定道氏(キリスト教学者、関西学院大学神学部教授)

タイトル「キリスト教大学の未来を展望するー地方・地域からの発信ー」

② 山梨英和大学 開学 20 周年記念講演会(11/12)

2022 年 11 月 12 日(土)、春に続き秋にも記念講演会を行う。対象は学生、教職員、及びステークホルダー。

記念講演会(13:00~15:00)

島蘭進氏(東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授。上智大学神学部特任教授)

タイトル「分断と孤立化に抗うケアとスピリチュアリティ」

③ 記念ロゴ制作

④ アニバーサリーソング制作

⑤ 歴史編纂・記念誌の発刊

⑥ 記念論集の発刊

⑦ 記念品の制作、配布

⑧ 広報活動の展開

● 「開学 20 周年大規模改修計画(案)」

2 期(ステージ 1、ステージ 2)に分けて計画的に教育的設備投資を行い、山梨英和大学の次なるステップの足掛かりとしたい。予算案については、別記する。

○ ステージ 1(2021 年度、2022 年度～)

テーマ「回顧」

校地移転・完成より 26 年、大学開学より 20 年。完成時の姿を回顧し、特に老朽化・劣化した部分と破損した部分の修繕・改修・修理を行い、必要に応じてリプレイス、及び時代に則したリノベーションをすることによって、安心・安全・美観を兼ね備えたキャンパス環境を実現する。

【実施内容】

2022 年度

① 全空調リフォーム

② 変電所防災改修工事

③ 水回り等リフレッシュ工事(全トイレ・リノベーション)

④ 大規模修繕建築工事

(1) 校舎全外壁・全屋根補修

(2) 中庭(インターロッキング)整備

(3) 噴水の復旧

(4) 体育館整備

(5) 構内マップ再整備

(6) 全窓網戸設置

(7) ユニバーサルデザインの見直し

⑤ 大会議室リノベーション

⑥ 校内設備・備品見直し

○ ステージ 2(2023 年度～)

テーマ「展望」

10 年 20 年先を展望し、大学にとって、また主人公たる学生にとって必要な施設・設備は何なのかを教職員・学生の間で十分に検討の上、必要に応じて教育的設備投資を行う。内容については 2022 年度中に検討・決定する。

(2002 年度より開始したクラブハウス新築についての寄付金は、目標の 5,000 万円を既に達成しており、新築工事の実施は必須である。)

【実施内容】

2023 年度～

① クラブハウス・学生関連施設 新築(内容については未定・検討中)

② 礼拝堂 検討・建築(内容については未定)

(2) 学生募集関係

過去 3 年間は好調であったが、今後の 18 歳人口動向を含む学内外の環境を考慮した場合、厳しい状況であることは変わらない。また長期化するコロナ禍の影響は深刻で、特に留学生の獲得は少なくとも数年は苦戦を強いられるのは必至である。

より一層の、周到かつ柔軟な姿勢で臨みたい。

メインターゲットは山梨県、長野県南信地域、留学生、キリスト教関連高に絞る。

高校生の志望校検討の早期化・長期化を踏まえ、各セグメントに対応した効果的な広報を通年に渡って展開する。ただし業者主導のおおざりな広報ではなく、適切なタイミングの広報、伝えたい価値では無く伝えるべき価値を重視した広報、KPI の設定も含めた費用対効果の意識を持ち、限られたリソースの配置を行う。

特にホームページについては全面的に見直して刷新を図り、コロナ禍での不安定な状況において仮に来校が難しい場合においても、情報を過不足なく伝え得る環境を整備したい。

(3) 施設・設備関係

全体としては、校地、校舎、施設および設備の維持管理を行い、安全性、利便性、衛生面およびユニバーサルデザインに配慮したキャンパスの整備に努める。

保守については、定期的なメンテナンス、計画的な補修を心がけたい。そのためにキャンパス全体に渡る施設総点検費用を別途計上する。

また大学開学 20 周年記念事業として、安全・美観・学生サービスの向上を念頭においた大規模改修計画に基づいて設備改修を行っていく。

Ⅱ 中学校・高等学校

1 はじめに

これまで中高独自の中長期計画Ⅰ期(2011～2015年度)、Ⅱ期(2016～2020年度)、Ⅲ期(2021～2025年度)を策定・実践してきたが、これらを土台として10年後を見据えた山梨英和学院中期計画(2024～2028年度)(2029～2033年度)の準備に着手する。少子化が加速する中、10年後も本校が建学の精神を貫き、この地においてキリスト教主義教育を継続できるよう、あらゆる可能性を検討していく。10年度のビジョンを描き、ロードマップを策定する。すぐに実現可能なものは臆せず挑戦していく。日々の教育活動においては、ひとり一人を大切に、個々の力を最大限に引き出す授業を研究し実践する。また、生徒たちが将来社会の一員として、自分の良さを十分に生かせるよう、多様性を受け入れる柔軟さや主体性を育てる。そして、山梨英和の基本理念であるキリスト教信仰を土台として、全ての教育が本校の校訓である「敬神・愛人・自修」につながるよう、信仰を持って祈りつつ歩む。

2 基本方針

- ・ 教育理念:「敬神・愛人・自修」
- ・ 使 命:「他者のために、他者とともに」生きる女性を育てる
- ・ ビジョン:キリスト教信仰に基づき、世界に貢献できる自立した女性を育てる
- ・ 価 値 観:人間形成の確立・国際的な視野・社会貢献
- ・ 行動指針:生徒自身が考え、行動する力を育てる

教師自らが研鑽を重ね、質の高い教育を行う

<Yamanashi Eiwa Way より>

2022年度の目標:「一人ひとりの賜物を見いだし、伸ばす教育の実践」

「敬神」	「礼拝を大切にする」	神と向き合う・自分と向き合う・他者と向き合う
「愛人」	「相手を尊重する」	学校行事や生徒会活動を通して、 様々な他者と真の人間関係を育む コミュニケーション力・ディベート力を身につける
「自修」	「高い志を持って研鑽する」	夢の実現に向けて努力する 社会に還元できるように、自分の能力を高める あきらめない強い精神力を育む

3 主な教育の概要

(1) 卒業の認定に関する方針

本校は建学の精神をキリスト教信仰に置く。また、本校の教育理念は、神を賛美し神の前に謙虚に立って、神と人ともに奉仕する人格を育成し、真理を学び、深き知性と品位を持つ子女を育成することである。

本校で学び、各教科における知識を取得し、所定の単位を修めるとともに、次に示す本校の学校生活での一般目標を備えた生徒に対して卒業を認定する。

- ① 生徒の生徒らしさは真理を求めるひたむきな勉学と純真さとにあることを自覚できる。
- ② イエス・キリストにおいて啓示された神との正しい関係を求めて、常に自覚的に生

ることができる。

- ③ 一人ひとりかけがえのない存在であることを十分に知り、個性の確立に努めることができる。
- ④ 身体を強健にし、正しい判断力を身につけ、主体的に実践することができる。
- ⑤ 隣人との正しい関係をつくり、より良い学校社会を築きあげていくことができる。
- ⑥ 神と人々に奉仕して、良い社会の形成者へと成長することができる。

(2) 教育課程の構成及び実施に関する方針

① 愛と奉仕の精神を理念とする宗教教育

毎朝行われる礼拝では神をあがめ、隣人を思い、自分自身の命と存在の意味を考える。聖書の授業のほか、修養会、クリスマス礼拝などの行事を通しての宗教活動は本校教育の根底にあるプロテスタントのキリスト教信仰に基づくものである。

② 中・高 6 ヶ年教育

戦後の新制学校制度以来、中学・高校6ヶ年教育を実施してきた。その教育課程に流れるものは、中学校では基礎学力の充実と種々の体験学習に基づく進路指導にある。高校では、各人の個性と希望する進路実現に向けて選択授業による充実した学習を展開し、実力の養成に努める。

③ 国際的視野を広め、国際交流を通して培う人格教育

創立以来のカナダ人女性宣教師による厳格な人間教育と生きた英語教育の精神を継承し、国際的視野を広めることに努めている。海外にある3つの姉妹校は、いずれもキリスト教主義の女子校で、これまで3校とも活発な交流を行ってきた。コロナ禍の中、交流の実現は不透明であるが、これまで梨花女子高校(韓国)との長期交換留学制度や **Mentone Girls' Grammar School**(オーストラリア)とのターム留学制度を活用し多くの生徒たちが国際的視野を広めた。**A.B.von Stettensches Institut**(ドイツ)には環境学習研修として訪問し、研究発表の交流を行ってきた。さらに、2021年度は **IV Liceum Ogólnokształcące im. Tadeusza Kościuszki w Toruniu**(ポーランド)及び **Tallinna Järveotsa Gümnaasium**(エストニア)と教育提携を結んだことから、両校との生徒間の交流が活発になるよう調整を進めている。また、国際貢献を目的とするSDGs研修も充実しており、海外での豊かな体験により人格教育を実践するプログラムを提供している。

(3) 入学者の受け入れに関する方針

本校は、1889年に創立した山梨県下唯一のキリスト教主義の女子校で、幅広い分野で活躍する卒業生を輩出してきた。校訓である「敬神」「愛人」「自修」のもと、キリスト教信仰に基づく人間教育を揺るぎない教育を理念とし、創立以来グローバルスタンダードな女子教育を実践している。

国際的な視野に立ち社会に貢献できる自立した女性の育成を教育目標としており、以下の生徒を募集している。

- ① 本校志望の意思が強く、入学後は自らの進路実現に向けて、高い目標を持ち、学業に真摯に取り組む生徒
- ② 規則正しい生活ができ、学習を中心として、学校行事、地域と交流、部活動、学校外での活動(各種コンクールや大会、ボランティア活動等)にも積極的に参加し、常に自分を高めようとする生徒

- ③ 英語によるコミュニケーション能力の向上や資格取得に努め、国際交流等に意欲的に取り組む生徒。物事を科学的に捉え、論理的に考え、主体的に探求活動を行う生徒
- ④ 互いの違いを認め合い、豊かな人間関係が構築できる力を持つ生徒

4 中長期経営計画及び事業計画の進捗・達成状況

中長期経営計画で策定した各項目については、以下の通りの進捗・達成状況である。

(1) 「英語学習拠点」

2018年度から導入した **English Week** が定着しており、英語検定の合格者数などの実績を上げている。さらに英語指導を強化するために、2021年度よりオンライン英会話を全学年で、さらに希望者を対象とした個別リーディングプログラム **English Coaching** を導入し、定員を超える生徒が主体的に取り組んでいる。

また、2021年に第31回を迎えた「グリーンバンク杯(英語スピーチコンテスト)」については中学生部門をリニューアルし、小学生部門も新たに加え開催した。山梨県内の英語教育の活性化に寄与すると同時に、生徒募集にもつながることを期待している。

(2) 「校舎改築」

2020年度より大改修を終えた校舎で、空調や **ICT** の環境が整い、コロナ禍の中でも快適で先進的な教育を実践できたことは大きく評価できる。校舎統一による規模の適正化による効率的な校舎使用が可能となった。

また、高校校舎(Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ号館)については、理事会承認のもと旧校舎活用検討会議を立ち上げ検討しているが、活用方法が決定するまではコストや安全面に配慮し管理する。

(3) 「キリスト教主義大学への進路実績向上」

中高時代に学んだキリスト教主義の教育を継続できるよう、キリスト教主義大学への進学を望む生徒が多く、それを支援している。私立大学合格者のうち3割を超える生徒がキリスト教主義大学に合格しており、生徒の希望進路実現に向けて、学力向上も含め全教員で支援していく体制の強化を図る。

(4) 「SSH等による授業改革」

近年、大学進学においても「探究活動」が非常に重んじられてきている。本校が **SSH** で培った「探究活動」において、生徒たちが自ら設定したテーマで、主体的に研究に取り組めるような体制を新カリキュラムにおいて整える。

さらに、「言語技術の向上」、ユネスコスクールとしての「**SDGs** 学習の推進」を実践する。

(5) 「ICT活用」

2019年の校舎の大改修工事に併せて最新の **ICT** 環境を整えたが、オンライン英会話など授業の実施に合わせて、2021年には各階の廊下などにアクセスポイント及び情報コンセントの増設工事を行った。整備された **ICT** 環境を活用し、教育効果を高めるための活用を検討しており、具体的にはハイフレックス型授業の導入を検討している。

*ハイフレックス:同じ授業を対面授業とオンライン授業の双方で受講できる方法

5 事業計画

(1) 教育・研究関係

【重点事業】

山梨英和の建学の精神に揺るぎなく立ち、キリスト教信仰に基づく本校の校訓である「敬神・愛人・自修」が、常に本校の中心にあることを全教職員が再確認する。この2年ほどは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で多くの制約を余儀なくされたが、規模を縮小し工夫しながらも学校行事を実施することができたのは大きな恵みである。今後も教育機関として学びを止めないスタンスを貫き、知恵を絞って出来る限り生徒たちの活動を後押ししたい。このような状況だからこそ、日々の礼拝を大切に、他者を思いやり、神様の言葉に謙虚に耳を傾ける生活をおくりたい。

① 「神を敬う」

本校の根幹にあるキリスト教信仰に基づく教育を実践する。そのためには毎日の礼拝を大切にする。コロナ禍の中、全校がチャペルに集うことが難しいが、高らかに神を賛美する合同礼拝を守れる日が来ることを祈りつつ待ち望む。「敬神」

② 「相手を尊重する」

生徒・保護者・教職員間で互いに尊重し全員で支えあう組織を目指す。困難な状況にある時こそ、小さいもの・弱いものに目を向け寄り添う。「愛人」

③ 「高い志をもって研鑽を積む」

教育界がこれまでにない大きな変革を求められている今、新たな教育の方向を探るために柔軟な対応が求められている。多忙を極める中、自己研鑽が欠かせない。校内教育研究会の内容を精査し、個別最適化に向けた生徒主体の教育の実践を目指す。「自修」

【最重要課題】

① 「生徒確保」

少子化が加速し、さらに感染症拡大により経済的な打撃もあり、生徒確保は非常に厳しい環境にあることから、これまでの広報活動を総括し、年間活動計画を策定したうえで効果的な広報活動を展開していく。

- ・ 中学:山梨県内全域の小中学校だけでなく、学習塾や習い事にも丁寧に訪問し、地元の認知度を高める。特に高く評価されている本校の英語教育について理解を深めるためパンフレット等の内容や出稿する媒体を見直し、周知を図る。昨今では、ネット上での情報収集が主流となっていることから、SNS を使用した効果的な広報活動を展開すると共に、WEB 出願についても導入を検討する。また、2021 年度より小学生部門を設置したグリーンバンク杯への参加者を増加するよう働きかける。
- ・ 高校:中学入試と同様に丁寧な学校訪問や本校の教育内容を伝えるパンフレット等の内容や媒体の見直し、SNS を活用した周知の強化を図る。海外の複数の国から優秀な私費留学生を受け入れ国際化を目指しており、さらに、帰国子女や短期留学生(1 年)を積極的に受け入れる。受入にあたっては、提携寮の部屋数確保や留学生のための日本語の授業を専門の教師が行うなど態勢を整える。2021 年度から起用している国際教育アドバイザーを、近隣の県外(長野・東京・静岡)からの生徒確保のために、県内外の一部地域への学校訪問も依頼する。

② 「個々の生徒の学力向上および希望進路の実現」

生徒一人ひとりが神様から与えられた賜物を引き出し活かすために、2022 年度の教育目標である「一人ひとりの賜物を見だし、伸ばす教育の

実践」に向けて全員で取り組む。教育のユニバーサルデザイン化を目指して授業・課題・評価などの研究が必要となるため、校内教育研究会を同じテーマで一年を通してご指導いただける講師の先生に依頼する。

- ・ 「一人ひとりの賜物を活かす」:これまでの画一的な教育から、個々への対応が求められている。特に神様からいただいたそれぞれの賜物を活かす教育は本校が目指す教育そのものである。生徒の個性を受け入れ、生徒に最も適する学び方を選択できる「個別最適化」の学びを目指す。英語においては、2021年度からオンライン英会話や English Coaching など新たな手法を導入し、個別指導により4技能 (Listening, Speaking, Reading, Writing)を総合的に伸ばしている。国語・数学・英語・理科については、高校において習熟度授業を行い、個々の理解度に適した授業を実現するために、習熟度別授業の変更が柔軟にできるようにする。6年間で真の学力が付くような体系的なプログラムを構築する。全教師がファシリテーターとして、個々の生徒の力に応じた最適な学びをサポートする。
- ・ 「探究学習」:探究的な学習や平和学習などを通じ、生徒同士、あるいは地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する協働的な学びを展開する。具体的には、中学校では統計学習、高等学校では総合的な学習の時間など他者との協働を通して、他者を価値のある存在として尊重し、持続可能な社会の創り手となることができるよう支援する。
- ・ 「希望進路の実現」:中高6年間(もしくは高校3年間)で培った聖書の学びを継続できるようキリスト教主義の大学への進路実績を高めるよう取組む。また、進路の選択肢を増やすため、UPAA(海外協定大学推薦制度)を通して英米の大学と国内の大学の併願受験の門戸を開いたので、発展・充実させる。

③ 「教室に入れない生徒の対応」

近年登校できない生徒や登校しても教室に入れない生徒が増えている。そのような生徒への対応は非常に繊細かつ難しい。カウンセラーを週2日勤務に増やし、安心して相談できるようにする。また、授業のユニバーサルデザイン化を目指し、生徒たちが心地よく学べる環境を整えた上で、保健室、担任・学年、支援、カウンセラーが情報共有しながら、個々の生徒の対応をチームとして支える体制を構築する。

● 人事

2022年度に採用予定の教員は1名(理科)であり、校内での初任者研修等とおし、本校の教育理念の理解をはかるとともに、校内教研等の研修を促進し、教科指導のプロとして研鑽を積む機会を設ける。一方、2021年度に退職する教員は常勤講師1名(英語)、外国人教師1名、臨時養護教諭1名である。

2020年1月の中高校舎統一工事完成により、一つの職員室・一つの事務所となり、部主任に関する規定を改定し役職を減じた。このことで、組織のスリム化に繋がるとともにコミュニケーションが円滑に進むこととなった。2022年度は、働き方改革に伴い、教員・職員ともに仕事の効率化を図り、本校の教育理念に沿った教育を実践できるような体制づくりに向けて、人事配置計画の検討を継続する。

事務職員については、山梨英和学院全体の事務組織の中で適する人事異動を検討する。

6 生徒募集関係

[当該年度(翌年度募集)の計画]

中学入学生 70 名、高校入学生 120 名の確保を目標とする。COVID-19 感染症拡大防止に配慮しつつ、目標を達成するために次の方策を実施する。

- ① 積極的な広報を展開するために、昨年度のデータを慎重に分析し、次年度の年間活動計画を策定していく。これに基づき学校、塾の地域別担当を決め、教職員全員体制できめ細かな募集活動を展開する。
- ② 中学入試改革
2013 年度入試から山梨県内では初めて導入された中学専願入試の「英語(選択)」は、十分に周知され受験生を集めている。この間、小学校での外国語活動も取り入れられ英語を巡る教育の重要性も高まっている。今後も「英語の山梨英和」を内外に示していくために、英語を得意とする受験者層の拡大を目指したい。中学スカラシップ入試を県内で初めて導入し、学力のある受験者層の拡大を目指した。2022 年度入試では、新型コロナウイルス感染防止の点から、「専願入試」の「国語」「算数 A」「算数 B」を試験科目とし、1 度の受験でスカラシップ選考が行えるようにした。昨年度 8 月に実施した「中学入試スカラシップ対策講座」には、多くの参加者が集まり、スカラシップ入試のアピールとして有効であった。スカラシップ入試の受験者の学力レベルも上がっている。スカラシップ入試を手がかりに受験生増加を図る。さらに、10 月に小学校 6 年生を対象に「入試問題対策講座」を実施し、入試シーズン直前の志望者への働きかけとなった。
- ③ 海外・帰国生、私費留学生の受け入れ強化
少子化の中、生徒数を確保するため、「海外・帰国生入試」の入試要項を変更し受け入れの強化を図った。私費留学生の受け入れは中国におけるエージェントを通して軌道に乗ってきている。今後は、広く海外・帰国生や留学生を受け入れるため、エージェントを増やし積極的に働きかけるとともに、英語版の学校案内や SNS による情報発信など海外からの募集に力を入れる。
- ④ グリンバンク杯(英語スピーチコンテスト)改革
「グリンバンク杯(英語スピーチコンテスト)」が改革されるのを機会に、小学生向けの部門も開催された。中学生部門はもとより、小学生部門の参加者が増えていくようにコンクール実行委員会と連携する。
- ⑤ 高校入試改革
2013 年度入試より、これまで実施していた校長推薦の特待生に加え、一般入試にスカラシップ入試を導入し、その機会を高入生だけでなく内部進学生にも平等に与え、成績上位層へのアピールをはかった。受験生のモチベーションの向上のため 2022 年度は更に認知度をあげ、生徒増を目指す。「高校から山梨英和へ」という入学生を増やすため、推薦入試での受験生の増加を図る。推薦特待生の周知を進め、2017 年度入試から設けられた「S 種特待生(原則 3 年間)」の認知度を高め成績優秀な受験生にアピールする。
- ⑥ 高校習熟度授業の導入
2020 年度の入学生から、国語・英語・数学においてクラスにとらわれない習熟度による授業を行っている。2022 年度からは教科ごとの習熟度に合わせた授業を実施し、一人ひとりを伸ばすきめ細かな指導が可能となる点をアピールしていき

い。

- ⑦ 入学金の優遇
2017 年度入試から「同窓生の子・孫・妹への入学金の半額免除」と「在校生の姉妹・姉妹(双子)同時入学者への入学金の半額免除」が実施され、受験への動機づけとなっていることから、今後も十分に周知し、生徒募集につなげる。
- ⑧ 山梨英和大学入試広報との連携
中学・高校の募集についても山梨英和大学の入試広報との連携し、お互いの利点や強みを相乗的に発揮した広報活動を目指す。特に、高校から山梨英和大学への進学に当たっての優遇面をアピールし高校、大学ともに生徒・学生の確保に努める。
- ⑨ 中高校舎統一による中高一貫教育の強化
中高一貫教育の強化を効果的に PR する。メイプルホールのラーニングコモンズとしての働きやエコスクール化と SDGs の教育の効果を周知する。
- ⑩ 小学校訪問、中学校訪問を精力的に行い、指導に当たる先生方との関係を構築し、本校への理解を求め、協力を依頼する。長野県にも積極的に広報していく。
- ⑪ 塾・予備校、ピアノ・バレエ教室などとの関係を深めるため資料の送付や PR 活動を行い、受験生の県内情勢の把握・分析に努める。
- ⑫ 生徒、保護者、PTA 本会役員 OB、同窓会役員・役員 OG、教会に連携・協力を要請する。PTA、同窓会の協力により導入した「小・中学生紹介カード」を、PTA 総会や同窓会総会に合わせ協力依頼した。教会へも積極的に協力を依頼する。
- ⑬ 小学生対象の英語講座を通して本校の教育の特色や魅力をアピールする。本校の教育を地域に還元していく狙いも強め、甲府市教育委員会や山梨県生涯学習推進センターとの連携を図り、内容も充実させ、魅力的な山梨英和の生徒の姿を PR する。
- ⑭ ホームページのリニューアルにともない、内容面・ビジュアル面ともに中学・高校への受験希望者に対して魅力あるものにし、積極的に学校の情報を発信していく。既存の LINE@をはじめ、2021 年度開設した Facebook や Instagram など SNS の広報活動への積極的な活用を推進する。
- ⑮ 2019 年度に創立 130 周年を記念した二面記事広告を掲載したことを契機に、PTA と関係企業の協賛による新聞広告を継続している。
- ⑯ 山梨英和中学から山梨英和高校へつなげる進路指導の展開を強化し、本校の中学生に対し、英和高校の魅力を十分に伝える方法を工夫する。
- ⑰ 上記方策の実施状況及び告知・PR(学校案内、新聞広告、ホームページ、ポスター・チラシなど)方法等を検証し、より有効な方策となるよう適宜改善する。

7 施設・設備関係

[当該年度の計画(充実整備・修繕整備計画等)]

- (1) 非構造部材の点検調査の徹底
天井や外壁などの非構造部材についての建物使用者による日常的な点検等を徹底し、地震による落下物や転倒物から生徒たちを守るために安全管理に努める。
- (2) グリンバンクチャペルの登録有形文化財への申請
2021 年 11 月の理事会で承認された、グリンバンクの登録有形文化財への申請を甲府市と共同で進め、2022 年度内の登録を目指す。

(3) 旧高校校舎の管理

今後の活用方法は未定であるが、旧高校校舎の管理は、日常的な維持管理(通風や清掃など)を行い、対応に努める。

[今後の計画(充実整備・修繕整備計画等)]

- ① 中長期計画を踏まえた高校校舎の活用を継続して検討する。
- ② 生徒の安全確保を目的として、既存の施設・設備の補修計画を作成する。
- ③ 水銀灯が 2021 年 1 月より製造中止されたことを受け、第 1・2 体育館の照明で使用されている水銀灯の LED 化計画を策定する。
- ④ ICT を活用した授業改革について研究を進める。

Ⅲ 認定こども園

1 はじめに

2015年4月より施行された子ども・子育て支援新制度による「認定こども園」に幼稚園から移行し、山梨英和学院の三つの幼保連携型認定こども園は0歳の乳児から就学前の年長児までの幅広いこどもたちを受け入れて、キリスト教精神に基づく保育・教育を行っている。

そうした中、認定こども園として求められる開所時間と開所日数を満たせる職員を確保して、保護者の多様なニーズにも対応し、また行政との事務的なやり取りなど多くの課題と向き合う日々を過ごしている。

三園が置かれている状況は、社会の少子化が進む中、教育標準時間認定(1号認定こども)が減少する一方で、保育ニーズの高まりが保育標準時間認定、保育短時間認定(2号認定こども、3号認定こども)の増加という形で現れている。背景の一つに幼児教育無償化があると思われるが、こうした現状において、良質な保育の維持と向上をはかることで園児確保を実現し、経営のさらなる安定をはかることが求められている。その大前提として、山梨英和学院の建学の精神を堅持し、すべてのこどもの最善の利益をはかる園を目指したい。

キリスト教保育・教育を持続的かつ安定的に展開させるには、何よりも保護者に信頼され、選ばれる園でなければならない。そのためには、「認定こども園教育・保育要領」に基づく保育実践は当然であるが、園の設立理念に基づく質の高い保育・教育を提供できる教職員の確保と育成、保育教諭としての技能・力量の一層の向上をめざすことが求められる。またその実践のためのよりよい環境の整備と確保、組織体制の構築、研修の充実をはからなければならない。

諸課題を解決する上で、職員相互の信頼と協力関係の構築は欠かせない。山梨英和学院の建学の精神であり、かつキリスト教保育の基盤である聖書の学びはもとより、職員間の円滑な意思疎通をはかる努力と工夫が一層求められる。園が置かれている社会は激しい変化のただ中にある。多様化するニーズ、配慮を要するこどものや保護者への対応など、諸課題への適切な対応が三園には求められている。

山梨英和学院の幼保連携型認定こども園として、安易に時流に流されることなく、将来に渡る見通し、ビジョンをもって、キリスト教信仰とそれに基づく保育・教育にこれからも専心し、なお一層の活動展開をはかりたい。

2 主な保育・教育の概要

(1) 教育課程の編成及び実施に関する方針

- ① 子ども一人ひとりの発達段階や家庭環境に配慮し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿った指導、環境構成を行い、就学まで一貫した教育・保育を子ども達に提供する。また子育て支援や障害児教育、地域との交流など、地域には開かれた園として子どもを取り巻く社会への働きかけを積極的に行い、地域福祉に寄与する教育・保育施設をめざす。
- ② 教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画を作成する。
- ③ 指導計画の作成と園児の理解に基づいた評価を行う。
- ④ 特別な配慮を必要とする園児への適切な指導を行う。

(2) 入園児の受け入れに関する方針

各園の認可定員に基づき子ども・子育て支援法第19条第1項の各号に掲げる就学前のこどもの区分ごとに利用定員を定めて受け入れる。

3 事業計画

(1) 重点事業

[当該年度の計画]

- ① 幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、就学までの切れ目のない一貫した教育・保育を、遊びを中心としたキリスト教保育として実践、展開する。
- ② こどもたちの発達段階、個性、特性、能力、家庭環境などに配慮、考慮しつつ、こどもも保護者も安心感して過ごせる場となるようにつとめる。
- ③ 園児の健康と安全につとめる。
- ④ 教育・保育、子育てプログラムの充実をはかり、こどもたちの個性をのばし、保護者の子育てを支援する。
- ⑤ 自然に親しみ、他者と交わる機会を提供し、種々の体験や学びを通してこどもたちの豊かな情操、創造力、感受性、知的好奇心、忍耐力、集中力などを養う。
- ⑥ 研修を充実させて保育教諭の資質・技能の向上をはかる。あわせて職員間のコミュニケーションの向上につとめ、同僚性の一層の確保を実現して質の高い保育・教育を提供できるようにする。研修においては特に「気になるこども」、配慮を要するこども、障がいを持つこども、またその保護者への対応、配慮のスキルアップをめざす。
- ⑦ 保護者や地域の保育ニーズに応える山梨英和らしい事業を実施する。
- ⑧ 保護者や職員が建学の精神の基であるキリスト教の信仰と聖書に親しめる機会を設ける。
- ⑨ 地域の子育て支援の拠点となるよう努め、地域社会に貢献する。
- ⑩ 小学校との接続について一層の強化、連携をはかる。
- ⑪ 地域の高齢者等との交流の機会を大切にする。
- ⑫ 新制度の実施主体である各市町との連携、協力体制の一層の確立に努める。
- ⑬ 山梨英和学院の他部門との連携、協力を一層緊密なものとする。

[今後の(中・長期的な)計画]

- ① 建学の精神を堅持しつつ、子ども・子育てにかかわる動きに適切に対応し、幼保連携型認定こども園としての一層の機能充実をはかり、地域に貢献できる園となる。
- ② 保育・教育・子育て支援を十分に展開できる規模、体制、施設の構築等の検討を行い、その実現をめざす。
- ③ 上記の目的を達成するために、「保育・教育・子育て支援」「利用定員・職員配置」「園舎・環境構成」「事務・経理」「その他」の事項に関わる中長期経営計画を立案し、実行をはかる。

(2) 保育・教育関係人事

- ① 適切な職員の配置を行い、保育の質の向上と業務の負担軽減をはかる。
- ② 処遇改善等にかかわる運営体制の適切な構築をはかる。
- ③ カリキュラム・プログラムの精選、深化、展開を意識した人員の配置、研修、諸活動を行う。

4 園児募集関係

- ① 園案内、ホームページ、通信等の広報・メディアを活用する。
- ② 山梨英和プレストンこども園は笛吹市の子育て支援拠点事業を継続し、他の2園は行政や地域の子育て支援センター等とのかかわりを緊密なものとして園の存在と働きを広く知らしめる。
- ③ 講演会や諸集会等を通して子育てにかかわる人たちが集える場を設ける。

- ④ 在園児、卒園児、未就園児、父母の会等を通じて入園希望者の情報を入手し、募集にかかす。

5 施設、設備関係

- ① 園児の安全確保のために施設、設備、遊具等の点検、補修、改修につとめる。
- ② 教育・保育環境の整備・充実をはかる。
- ③ 地震・災害対策及び防犯対策等について必要な対策を講じる。
- ④ 経年劣化した施設・設備への改修を行う。
- ⑤ 山梨英和カートメルこども園、山梨英和ダグラスこども園については、築後 35～36 年が経過し、安全上、衛生上多くの不具合があるため、できるだけ早く新園舎の建替えを行う。
- ⑥ 新園舎建設にあたってダグラスこども園は、ハザードマップ 5m 浸水地域にあたるため、高台に移転するべく土地の購入を予定している。
- ⑦ カートメルこども園は、現在の園舎西側の土地を取得する予定である。

IV 学校法人（法人本部）

1 はじめに

法人本部は、第一の本務である学校法人事務局としての総務・経理業務を適正かつ効率的に遂行し、3部門のサポートと部門間調整に努めると共に、経営を担う理事長・院長へ適切な情報提供を行う。

2年を超えるコロナ禍により、もう一つの本務である山梨英和学院全体（法人）としての各種事業・行事の幾つかは、十分な形態では実施できなかった。これは結果として3部門の一体感醸成の強化、外部・ステークホルダーとの交流・連携の強化の妨げとなってしまったことは否めない。2022年度のコロナ禍の状況は未だ見通しが立たず2021年度と同様な状況になる可能性があるものの、収束方向に向かうならば、出来得るかぎり従前のように積極的に事業・行事を実施したい。

上記以外の大きな業務として、現中長期経営計画の積み残した法人全体の施策を完成に近づけることがあり、また、次期中長期経営計画とそのベースとなる長期ビジョンの策定を行う。なお、小学校設置構想（案）に代わる旧高校校舎跡地の活用方法については検討を継続する。

更に、私学行政の厳しい環境変化の下で、ガバナンスコードへの対応と、学校法人ガバナンス改革に伴う私学法改正への対応（準備）が重要課題となる。

2 基本方針

学校法人の事務局としての業務を適正かつ効率的に遂行し、経常的な事業・行事を実施すると共に、限られた人的・物的資源の中で、2022年度においては以下の4課題に対応する。

- ① 現中長期経営計画に掲げた施策の実施
- ② 10年間の長期ビジョン策定と次期中長期経営計画の策定作業開始
- ③ ガバナンスコードへの対応
- ④ ガバナンス改革を伴う私学法改正への対応（準備）

3 事業計画

(1) 現中長期経営計画に掲げた施策の実施

- ① 学院全体の建学理念の浸透
 - ・全教職員に対する校訓「敬神・愛人・自修」と建学理念の浸透のため、院長・理事者によるメッセージ発信を継続して行っていく。
- ② ガバナンス体制の確立
 - ・ガバナンス改革を伴う私学法改正への対応準備を進める。
- ③ コンプライアンス態勢の確立
 - ・コンプライアンス関連規程の下、コンプライアンス遵守意識の浸透を図る。
- ④ 合理的経費削減策の実施
 - ・経費削減に資する事業会社設立を検討する。
- ⑤ 人材育成
 - ・事務職員育成のため教育・研修の充実を図る。
- ⑥ 広報活動の学院一元化と山梨英和ブランドの再構築
 - ・「広報委員会」により学院一体での広報活動を検討する。
- ⑦ 同窓会等ステークホルダーとの関係強化
 - ・理事長・常務理事による継続的な同窓会との関係強化に努める。

- ・理事長・常務理事による行政、企業、マスコミへの訪問を活発化する。
- ⑧ 寄附金増加対策の実施
 - ・寄附金増加対策の実施のための効果的施策を検討・実施する。
- ⑨ 教育環境の整備計画の調整
 - ・学院全体の視点から遊休不動産の有効活用を検討し実施する。
- (2) 10年間の長期ビジョンと次期中長期経営計画の策定開始
 - ・各部門の長期ビジョンの取り纏めと学院全体の長期ビジョンの策定
- (3) ガバナンスコードへの対応
 - ・私大連版ガバナンスコードへの対応と山梨英和学院版ガバナンスコードの制定の検討
 - ・ガバナンスコードの遵守体制の整備
- (4) ガバナンス改革を伴う私学法改正への対応(準備)
 - ・私学法改正内容への対応検討
- (5) 法人本部が担当する経常的な事業・行事
 - ① 定期理事会・評議員会・常務理事会の開催
 - ・定期理事会は5月、7月、9月、11月、1月、3月に開催する。
 - ・定期評議員会は5月、9月、3月に開催する。
 - ・常務理事会は各月(8月を除く)に開催する。
 - ② 山梨英和学院教職員修養会
 - ・2022年5月21日(土)大学グリーンバンクホールにて開催する。
 - ③ 山梨英和学院教職員クリスマス礼拝
 - ・2022年12月2日(土)中高グリーンバンクチャペルにて開催する。
 - ④ 維持協力会活動
 - ・役員企業の訪問並びに山梨英和学院維持協力会報第17号の発行を通じて、寄付金に係る税制上の優遇措置(寄付金控除)の周知と会員の増加を図る。
 - ⑤ 教職員健康診断・ストレスチェックの実施
 - ・5月に教職員健康診断、6月にストレスチェックを実施する。
 - ⑥ 情報公開
 - ・ガバナンスコードに基づく情報公開範囲の拡大対応を行う。
 - ⑦ メイプルニュースの発行
 - ・広報誌「メイプルニュース」第63号を7月に発行する。
 - ⑧ 第19回三英和懇談会
 - ・旧カナダ・メソジスト教会との関わりにより設立された「三英和(東洋英和女学院・静岡英和女学院・山梨英和学院)懇談会」を2022年7月9日(土)に山梨英和学院が幹事となりオンラインで開催する。
 - ⑨ 職員新年礼拝
 - ・2023年1月5日(木)に職員新年礼拝を実施する。
 - ⑩ 長野 彌(元理事長)記念奨学金の給付
 - ・勉学の支援と有為な人材の育成を目的とした長野彌記念奨学金(学業奨励奨学金2名以内(1人20万円)、学業継続支援奨学金10名以内(1人15万円)を給付する。
 - ⑪ 永年勤続教職員表彰
 - ・2023年3月31日(金)に永年勤続教職員を表彰する。